

山口市で撮影した狩蜂類

中村 孝¹⁾

狩蜂（カリバチ）とは他の昆虫やクモを狩り、子どもの餌としているハチの仲間で、日本で約1000種類確認されている（田仲 2012）。巣の作り方やどんな昆虫をどのように狩りをするのかなどとても興味深い昆虫である。今回、山口市内で撮影した狩蜂を紹介したい。

撮影した狩蜂

①ナミコオロギバチ *Liris subtessellatus* 2010.12.11 山口市秋穂二島

撮影日は12月。冬になると昆虫はほとんど見られなくなるが、本種は暖かい日には飛び回る様子が見られた。この個体（写真1）のまわりには数匹の飛びまわる個体が確認できた（写真2）。



写真1 日向ぼっこをしている
ナミコオロギバチ



写真2 飛翔後、地面で休む数匹の個体

②オオシロフクモバチ *Episyron arrogans* 2010.10.10 山口市秋穂二島

ソテツに巣を張ったジョロウグモと格闘した後、どのように運ぶのかを観察した。動かなくなった状態のクモを注意深く調べるように歩き回った後（写真3）大顎でくわえ、クモの巣から離れていった（写真4）。



写真3 クモの周りを歩きまわる
オオシロフクモバチ



写真4 大顎でくわえようとする
オオシロフクモバチ

¹⁾ NAKAMURA, Takashi 山口市阿知須5302-1

③ ツマアカクモバチ *Tachypompilus analis* 2010.7. 29 山口市秋穂二島

自分の体よりはるかに大きいアシダカグモを運んでいる本種を見つけた。写真を撮ろうとすると驚いたように飛び立つ(写真5)がもとにもどってきて、大顎でくわえ、再び運び始めた(写真6)。



写真5 獲物から離れるツマアカクモバチ

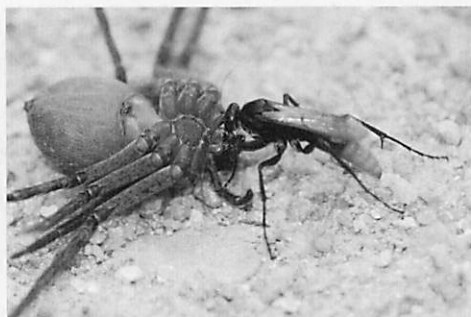


写真6 クモを大顎でくわえる
ツマアカクモバチ

④ キンモウアナバチ *Sphex diabolicus flammitrichus* 2012.8.7 山口市白石

砂場でたくさんのハチが飛び回っているという知らせを聞き、いってみると本種がたくさん飛び回っており、餌であるクダマキモドキをくわえて、巣穴に運ぶ様子が観察できた。この写真はクダマキモドキを取り合う様子を撮影したものである(写真7、8)。手前の個体が餌を運んでいたとき、別個体(奥の個体)がやってきて持ち去ろうとしたが、最初に運んでいた個体が自分の巣穴に運び込んだ。



写真7 獲物を奪い合うキンモウアナバチ



写真8 獲物を奪い合う
キンモウアナバチ

引用・参考文献

- 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会, 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト2011: P108-113
田中伸一, 2011. 山口県産有剣類のデータ集. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (3): P65-98
田仲義弘, 2012. 狩蜂生態図鑑, : P133-135. 全国農村教育協会
寺山 守, 2008. 日本産有剣膜翅類検索表9. ギングチバチ科 (Crabronidae) ケラトリバチ (Larrinae) ケラトリバチ族 (Larrini) の種の検索表. つねきばち, (14): P2-12